

家事が大好きな働きたい 若年性認知症女性

県外からの転居 # 同居 # ダブルケア

ケアプランセンターせと 高石 早与子
(元 地域包括支援センターせと 所属)
看護師 主任ケアマネジャー



瀬戸市の概要

- ・ 65歳以上38,456人
- ・ 高齢化率**29.9%** (R4年)
県内69市町村中10位
(県 25.4% R2年)
- ・ 日常生活圏域 5圏域
- ・ 地域包括支援センター 7か所
- ・ 基幹型包括 1箇所
- ・ 要介護認定率 15.7%
(県16.4%)
- ・ 認知症地域支援推進員 2名



【地域の特徴】

「せともの」の町
最近是将棋の藤井聡太竜王
もうやっこネットワーク



「地域包括支援センターせと」とは…

- ▶ 高齢化率 **40%**（瀬戸市29.9%：R4年）
- ▶ 昭和40年代後半に造成された丘陵地帯にあり、3つの団地（3小学校区）と団地外地域（1小学校区）を管轄。
- ▶ 5～8階建ての集合住宅約70棟と分譲住宅の構成。
- ▶ 瀬戸市出身の方だけでなく他市等から転入された方も非常に多い。
- ▶ 同じ時期に転入されているので地域ネットワークが強い面がある。
- ▶ 独居や高齢者世帯が多く、子供世代と同居は少ない。

認知症初期集中支援チームの概要

配置先：瀬戸市内の7地域包括支援センター

チーム員職種（参加）：医師、保健師・看護師・主任介護支援専門員・社会福祉士・ケアマネジャー(地域包括支援センター職員)、認知症地域支援推進員、瀬戸市役所職員

サポート医：6名

会議の平均時間：1包括につき約15～20分でトータル1時間

令和3年度の対象者数：20名（継続含む）、うち新規13名

訪問数（延べ）：61回（継続含む）

平均訪問回数：3.4回

終了者数：19名

ケース報告

家事が大好きな働きたい 若年性認知症女性

- ▶ # 県外からの転居 # 同居 # ダブルケアラー

令和2年1月29日一本の電話から…



- ▶ 約3年前に若年性認知症の診断。他県で独居だった義母と数か月前から同居。
- ▶ 土地勘がなく閉じこもり状態。
- ▶ 昼間独居
- ▶ 家事が大好きだったが意欲なくなり、途中で忘れてしまい出来なくなった。
- ▶ 年齢よりも若く見られるので介護サービス等は難しそう。
- ▶ 相談者の長男妻は幼稚園児2人を抱えたフルタイム勤務。長男は交代勤務で家族全員が多忙。
- ▶ 「集える場をさり気なく本人に案内してほしい」という依頼あり。

造設地域で若年層居住が多く同年代がない

ご本人と面談したいが・・・

- ▶ 本人に内緒で相談：長男夫妻同席の面談は難しそう
→被害妄想があり、本人と長男家族との関係悪化の可能性大
- ・本人在宅時に電話で実態把握のアポとり、直接訪問、いずれも反応なし（居留守）
～会えないまま数日が経過、長男妻の心理的負担増大～

認知症初期集中支援チームへのケース相談を検討

- ①ダブルケア冊子等を活用しながら家族在宅時の訪問を模索
 - ②主治医への情報提供等での連携を図る
- ※他県医療機関受診の為、顔が見えない関係で不安



主治医との連携

他県の医療機関で顔が見えない関係で不安だったが、状況を電話説明とFAX

⇒即日返信!

「今後の関わりで問題行動がさらに増悪する事が考えられ、早急な介護申請等、関りを持ってほしい」と主治医より提案と協力の助言あり

背中を押された!

仕切り直し

情報を得た上で再度訪問を試みようとする、

まだ会えない

2月下旬 被害妄想が悪化、Sさん他県の親類宅へ家出

本人の被害妄想・作話

親族から長男家族は苦情の嵐

30代の長男夫妻が親族から責め立てられる

3月コロナウイルス感染対策による学校・幼稚園閉鎖

親族:本人の認知症状に疲弊

3月下旬、本人自宅へ戻る = 家族全員ステイホーム状態

地域での関わりを相談しよう!を
テーマにやっと会えた!

本人の想い

やっと会えた!

- 「まだ掃除やご飯を作ったり、何か出来る事をしたい」
- 「ボランティアをしたい」
- 「家事が好き」
- 「新しい家で使い方がわからない」
- 「お嫁さんがいるから出しゃばってはいけない」
- 「孫ともっと遊びたいけど、お母さんのしつけもあるから(関りが)難しい」



コロナで色々な自粛さらに
ストレス倍増!

想像以上にお若い!
65歳以上には見えない

家族の想い

ご家族はもっと若い!
子育てで精一杯
引越して新しい土地に来て
何もかも精一杯

長男妻A

「自分が退職せず世話をしない事への罪悪感がある」
「これまでに自分達の悪口（本人の被害妄想）を聞いてしまい、
大きなわだかまりがあり、面と向かっては勇気がない」
「子供が今は家に居てくれるから緩衝材になってくれているが、この先はわからない」

認知症って?
介護サービスって何?

長男B

「交代勤務なので平日日中時間が取れる事もあるので出来る事はしたい。
病院は遠いが母が慣れ親しんだ病院を続けたい。でも介護の事は
よくわからない。この先の金銭面での心配もある」



コロナで色々な自粛
ストレス倍増!

令和2年3月 サービスに繋がりたい、でも...

- ▶ 家事が好き！
 - ▶ 同居前まで一人暮らし、
 - ▶ 自分好みの味付けの煮物を近所の人にお裾分けしていた
 - ▶ 物忘れは進んでいるが室内は整然としており、自室は掃除が行き届いている
 - ▶ 長男宅は新築戸建ての最新家電・キッチンで使い方がわからない
 - ▶ 訪問するとお茶を出そうとしたり、もてなそうとする
 - ▶ ボランティアをしたい（無償・有償どちらでも）
 - ▶ 出掛けたいけど道がわからない
- ➡
- ▶ サービスマッチング出来るかな？
 - ▶ 見た目だけでも「介護」は・・・
 - ▶ キレイ好きで掃除習慣は保たれている
 - ▶ 新しい事は苦手だけど、昔ながらの事ならできそう
 - ▶ ホスピタリティ精神あり
 - ▶ 誰かの役に立ちたい
 - ▶ 出掛けたい気持ちはある
- ↓
- 楽しみや役割を何とか叶えたい**

介護サービス+雇用契約・ボランティアは？

令和2年3月

介護認定申請⇒小規模多機能型居宅介護サービス事業者にサービスに加え、掃除や片付け、簡単な食事の盛り付け等、本人の得意としている家事をボランティア（無償・有償）、あわよくば雇用契約が出来ないか相談。

（一緒にサービス計画を検討）

前向きに検討したいと回答あるも、まずは本人の状態を把握したいとの事。小規模多機能型居宅介護サービス事業所近くの喫茶店定休日の清掃等の有償ボランティアを検討。

「ボランティアの話がありますが、高齢者の皆さんに慣れて頂いたり、覚えて頂く為にもしばらく通って頂けませんか？」と小規模多機能型居宅介護の通いサービスを相談すると快く受け入れて下さる。

実際に通い始めて・・・

通いサービス週3回+雇用契約締結

手際よく片付けや掃除をする様子からパートとして週1回の雇用契約ができた。



コロナ禍で依然、家族全員ステイホームで関係悪化



泊まりたい！

令和2年6月頃～

本人が帰宅を拒否する様になり、
泊りサービスメインへ



...でも孫とは会いたい

〈本人-家族との関係調整〉

- ▶ 家族に認知症の理解を求める
- ▶ 家族内の役割の明確化
- ▶ 認知症の予後
- ▶ それぞれの思いの共有

ACP的
要素

ダブルケアラー
一言で済ませられない
思いの共有

認知症の本人も参加出来る何か

今後の家族のあり方の
イメージ化

その後・・・

- ▶ 新しい土地に新居を構え、同居も始め、次は子供が小学校入学。全てが「さあこれから！」という時、コロナウイルスまん延で家族全員がステイホーム。本人の被害妄想による言動に心身共に疲弊し、度々涙されていたAさん。まだ30代前半でフルタイム勤務。時間をみつけての電話相談されるなど一生懸命です。
- ▶ ボランティアがしたいというSさん。週1回のパートの雇用契約が出来、大喜びしていたものの、通いサービス中の片付けなど、生活機能訓練を自分の役割と考え、雇用契約を自ら解除。「私だけお給料を頂くのは悪いわ。やっぱりボランティアにさせてほしい」と。
- ▶ 一時は被害妄想が強くなり、泊りサービスメインとなっていたのが、今は家族・本人、相互の理解で関係が修復され、泊りと通いをバランスよく利用して、適度な距離感で家族で過ごされています。
- ▶ Aさんも涙される事はなく、BさんはSさんの受診に必ず同行し、金銭管理だけでなく、Aさんの介護の悩みや思いも共有し、事業者との担当者会議やモニタリングの訪問にも同席しているとの事。Aさんはフルタイムからパート勤務に切り替え、子育てと介護・家事を余裕をもって取り組んでいます。

ご清聴ありがとうございます



ケアプランセンターせと

(元 地域包括支援センターせと 所属)

看護師 主任ケアマネジャー 高石 早与子